



勝手に温泉横綱審議委員会

会員 伊藤 明彦 (53期)

温泉が、好きである。酒はぬるめの燗がよいが、温泉もぬるめの湯にじっくり浸かるのがたまらなく心地がよい。そのような湯に恋い焦がれ出会えることを夢見て、日本中を駆け巡るのである。

番付風に前頭15枚目まで愛する名湯をあれこれ紹介したいが、ぐっところえて東西横綱級を1つずつご紹介いたします（評価は全くの私見です。悪しからず）。

東横綱 青森県平川市碓ヶ関「古遠部温泉」

八甲田の谷地、酸ヶ湯など名だたる温泉を回った後立ち寄る。カーナビがなければ危うく入り口を見逃すようなところで、そこから山道を約1キロほど進むとその温泉はある。山中の一軒宿だ。

宿は、どこかの民宿で感じた懐かしい古くさい匂いがする年季の入った建物だ。

そそくさと湯へ。これまた古めかしい温泉分析表が提示されている。

脱衣所に向かうとすぐに湯が目に入り、途端、言葉を失う。かけ流しなんてものではない。湯が溢れまくっている。どこかで見た光景、そう、これ大雨で冠水した都心の道路状態。湯量は経験上最高。床に成分が凝り固まり、月面を彷彿とさせる。窓から外を見てまたびっくり。排出された湯の流れに沿って成分が堆積し地面が赤茶に染まっているのだ。

気合を入れて浸かると、あ、熱い。が、刺すような熱さではなく心地よく浸かれる。湯船の壁を指で擦ると、赤茶の成分がねっとり付着する。当然タオルも赤茶ける。じわんばわんと鉄分臭。凄まじいパワー。

洗い場が冠水しているので、客はトドのように寝転がる。あまりの湯量に肩まで浸かっているのも同然。もはや寝湯ではないのだ。「初めての方、高齢者の方は長湯をしないでください」の掲示。納得。

西横綱 大分県竹田市久住町「七里田温泉」

ラムネの湯で有名な大分県長湯温泉からさらに奥地へ車で15分ほどの位置にあるのがまだ見ぬ秘湯の七里田温泉。体中に気泡が付着する天然の炭酸泉は日本でも極めて稀である。なお炭酸泉は血行を良くし、医療の現場で高血圧や心臓病の治療に利用されると聞く。

受付で鍵をもらい共同浴場の建物へ。正直、ぼろい。苦手な蜘蛛の巣。しかしこれが嫌でも秘湯感を高ませる。脱衣所から段を下りると目当ての湯。湯船は2、3メートル四方ほどしかないが、上から見下ろしても既に泡が弾けまくっているのが分かる。いつになく厳かな気持ちで入念に掛け湯をし静かに入湯する。手前の方が、地元の方であろうか、目が合い微笑まれた。地元の方とのふれあひも共同湯の醍醐味だ。旅情なのだ。

洪水のように湯がかけ流される。体を沈め、10秒もしないうちに全身が白銀の泡に包まれる。1分もすれば泡に占領されそうな錯覚を覚える。体毛に泡が付き、沖縄のうみぶどうのように揺らめく。温度は36度。ほぼ体温と等しい。湯に同化しそうだ。30分くらい経過しても皆湯から出ない。分かる。気持ちよすぎて出たくなるのだ。泡が体からじきに離れて水面に浮上する。その度にパチパチこそばゆい。触覚を刺激する温泉なんぞ生まれてはじめてだ。感謝。

という思い出にひたりながら、都内健康ランドの人工炭酸泉で我慢する私であった。



愛用の桶と草津湯もみで入手したタオル